

◎景気ウォッチャー調査[2022年3月]  
2022年3月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を16.6ポイント上回る53.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「気温が少しずつ上昇し、人の動きも活発になってきている。売上が非常に悪かったトラベルバッグ関係は少しずつ復調の兆しが出てきた。」(百貨店)、「まん延防止等重点措置の解除で客の動きは良くなっている。」(通信会社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を22.2ポイント上回る53.2となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「3月に入って受注量が減少傾向で厳しい状況である。値上げを実施したが、それ以上に原材料価格や運賃が高騰しており、再値上げが必要な状況である。」(食料品製造業)の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント下回る50.0となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「巣籠り需要で業務量が増加となった製造業の新規求人数が前年同月比で7割の大幅増となり、製造業中心に新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。求人全体では1割増加となっている。」(職業安定所)の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を12.3ポイント上回る59.4となった。

	3月	2月	前月差
合計	53.2	36.6	16.6
家計動向関連	53.2	31.0	22.2
企業動向関連	50.0	50.8	-0.8
雇用関連 (参考値)	59.4	47.1	12.3

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を3.8ポイント上回る52.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「自粛の反動で来客数は増加する。」(乗用車販売店)、「Go To Travelキャンペーンを始め、国の施策と連動して需要回復が見込める。」(旅行代理店)等の理由から、「良くなる」「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.9ポイント上回る53.2となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」「変わらない」の回答の割合が減少し、「客の収益力が低下すると懸念している。ウクライナ問題、原油高、地震、車の納車遅れ等マイナス材料が多く、客は将来投資に消極的になる。」(会計事務所)、「半導体不足による一部製品の受注減少や原油高による電力料金等の値上げが収益を圧迫してくる。」(非鉄金属製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.3ポイント下回る44.9となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「ウクライナ情勢、円安、値上げなどのマイナス要因は多いものの、人が自由に移動できる、時間を気にせず飲食ができるという生活が、国内旅行などへの需要につながる。開幕したプロ野球に関連する消費も伸びる。」(民間職業紹介機関)、「企業から新卒求人に関する訪問アポイント数が増えてきており、景気が上向き傾向にある。」(学校)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を12.2ポイント上回る57.8となった。

	3月	2月	前月差
合計	52.0	48.2	3.8
家計動向関連	53.2	48.3	4.9
企業動向関連	44.9	49.2	-4.3
雇用関連 (参考値)	57.8	45.6	12.2